

## 令和5年度タンチョウ傷病個体収容結果

表1 平成12～令和5年度タンチョウ傷病個体収容結果（令和6年3月31日時点）

年度	(件)													(羽)			
	交通事故	列車事故	電線衝突	不明衝突	スラリール等	フェンス	他事故	中毒	栄養不良・衰弱	同種闘争	捕食・襲撃	その他	不明	死体	生体	収容個体数	うち鳥フル
平成12	8	2	5	1					4	1			1	14	5	19	
13	3	1	4	3			2	1	1			2	6	15	7	22	
14	4	4	14	3		1		2	2	3	1	2	1	22	12	34	
15	2	3	10	3	1	4	1	1					3	18	10	28	
16	2		12		1	1					1	2		8	10	18	
17	3	3	11	3	2	2	1		1	2	1	1	4	16	12	28	
18	3	4	6	3	2	1	1		1	1	1	1		12	9	21	
19	5	2	10	1	1	2	3	2	2	1	2	1	6	24	11	35	
20	6	4	12			3	3		1	1		2	2	18	13	31	
21	4	2	6	3	3	1	1		2	4	2	1	2	15	13	28	
22	2	6	5	2	2	2			5		1	1	5	17	8	25	
23	6	2	5	3		1	1		1	1	1		1	11	10	21	
24	4	7	5	1	3	1			2	1	1	1		14	11	25	
25	5	2	6	5	1	1	3		3	2	1	7	2	19	11	30	
26	10	2	6		1	2	2		2	2		1		12	12	24	
27	5	7	9	4	2	1			3	2		3	2	18	16	34	
28	8	2	3	4	2	1				2		3	7	22	10	32	
29	13	1	11	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	26	11	37	
30	7	6	3	6		6			4		1	3	3	23	10	33	
令和元	16	2	11	6	9	1			3		2	2	6	38	15	53	
2	13	1	3	4	3	2	3		1			1	1	22	9	31	
3	15	5	3	3	1	4	3		3		2	3	8	43	4	47	
4	18	3	1		7				1				24	31	22	53	1
5	10	1	1	6	4	2	1		1			2	16	37	7	44	4
計	172	72	162	67	46	40	26	8	46	24	18	40	102	495	258	753	5

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体が存在することによる。

※3 「他事故」には、ゴム栓などが嘴にはまってしまう事故や側溝などへの転落事故が含まれる。

※4 「フェンス等」とは、有刺鉄線、電気柵、シカ除けネット、シカ除け柵等への絡まりとなる。

※5 「スラリール等」とは、酪農業で設置している牛のふん尿貯めのタンクに誤って落下してしまったものとなる。

※6 「その他」には、疾病等が含まれる。

※7 「鳥フル」は、収容後の遺伝子検査により高病原性鳥インフルエンザウイルスへの感染が確認されたものを示す。

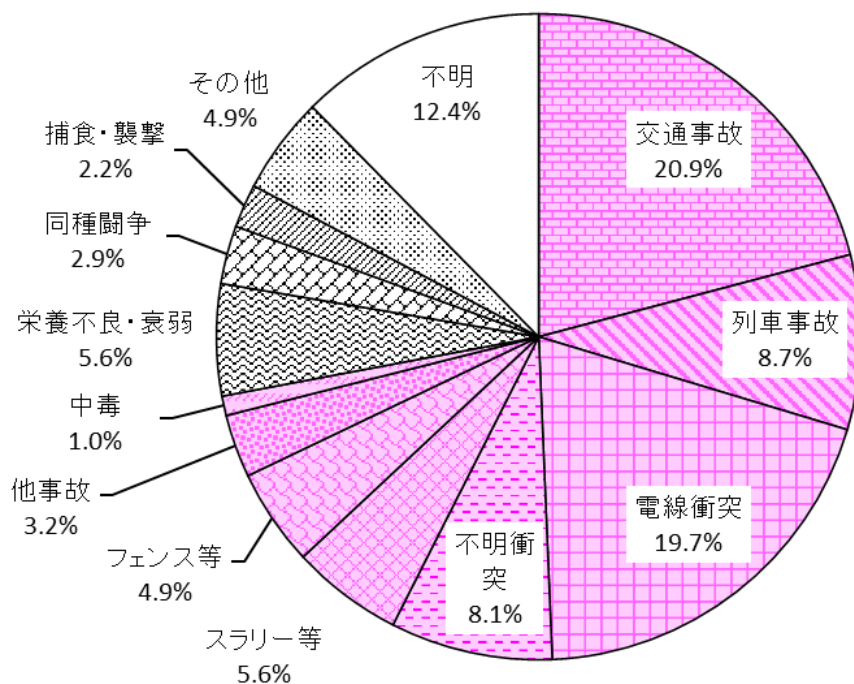


図1 タンチョウ收容原因別割合（平成12-令和5年度）  
ピンク色は人為的な要因が関わる收容を示す

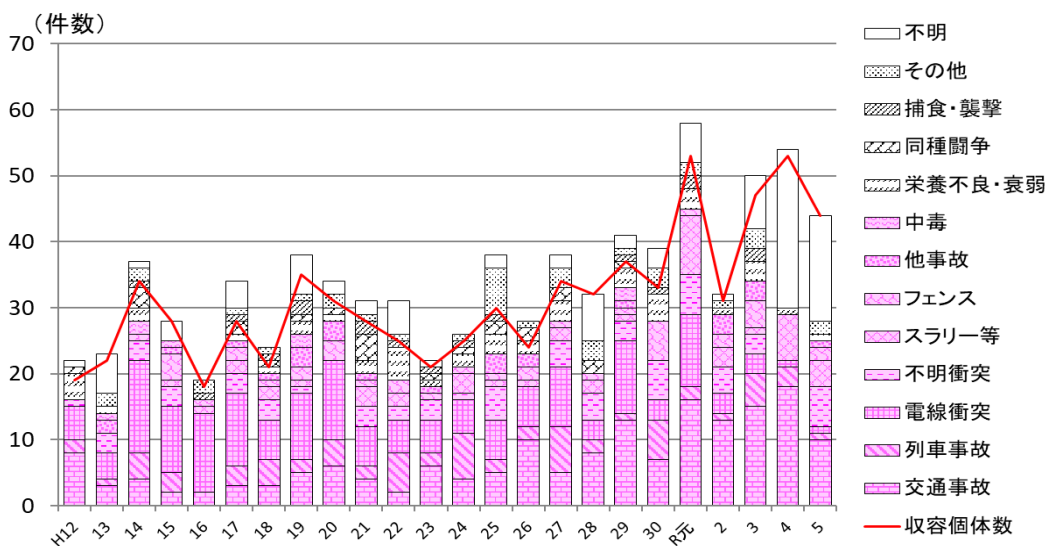


図2 タンチョウ年度別收容件数（平成12-令和5年度）  
ピンク色は人為的な要因が関わる收容を示す

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体が存在することによる。